

第 17 期 神奈川県漁業調整委員会 委員候補者 公募状況

1 漁業者委員

番号	氏名	年齢	性別	漁業経営状況			経歴	応募・推薦 推薦者・団体	応募・推薦理由
				所属・地区 主な漁業	従事 年数	漁業士等			
1	黒川和彦	58	男	横浜市漁協 東京湾 横浜市 海苔養殖 その他漁業	39 年		平成 15 年 横浜市漁業協同組合理事 平成 27 年 横浜市漁業協同組合代表理事組合長 平成 26 年 (公財) 神奈川県栽培漁業協会理事 平成 29 年 全国漁業信用基金協会神奈川県支所運営委員 平成 20 年 神奈川県漁業共済組合理事 平成 22 年 全国合同漁業共済組合神奈川県事務所運営委員 平成 24 年 神奈川海区漁業調整委員会委員	推薦 神奈川県漁 業協同組合 連合会	黒川和彦氏は、横浜市金沢地先において、のり養殖、たこ漁業、刺し網等の漁業に尽力してきた。 また、遊漁船業についても積極的に取り組み、漁船以外の多くの船舶が輻輳する東京湾地区における漁業や遊漁の調整について深い見識を持っている。 横浜市漁協の組合長のほか、(公財)神奈川県栽培漁業協会や全国漁業信用基金協会神奈川県支所等の県域団体においても理事等の重要な役職を歴任しており、さらに、海区漁業調整委員会委員の経験もあることから東京湾地区の漁業者を代表する委員として適任である。
2	小山雄輔	55	男	横浜市漁協 東京湾 横浜市 小型底びき網 漁業	31 年	青年漁業士	平成 24 年 横浜市漁業協同組合監事 平成 27 年 横浜市漁業協同組合 理事 平成 30 年 横浜市漁業協同組合 副組合長 平成 30 年 横浜市漁業協同組合 柴支所長 平成 26 年 (一財) 神奈川県漁業操業安全協会 評議員 令和 4 年 (一財) 神奈川県漁業操業安全協会 理事 令和 6 年 (一財) 神奈川県漁業操業安全協会 理事長 令和 6 年 東京湾小型機船底びき網漁業協議会 理事 平成 30 年 神奈川県漁業士会副会長 令和 3 年 神奈川海区漁業調整委員会委員	〃	小山雄輔氏は、東京湾における重要な漁業種類である小型機船船曳網漁業を営み、横浜市漁協副組合長、柴支所長として率先して東京湾漁業の資源管理に取組み、組合員に対しこれを徹底させる等、極めて優れた指導力を有している。 また、東京湾における漁業操業や航行安全に資する事業を行う(一財)神奈川県漁業操業安全協会の運営に長く関わり、現在は理事長に就くなど、地域の海面利用について深い知見を有することから、委員として適任である。
3	長塚博久	59	男	横須賀市東部 漁協 東京湾 走水 刺網漁業、海苔 養殖	37 年	指導漁業士	令和元年 横須賀市東部漁業協同組合理事 令和元年 横須賀市東部漁業協同組合 走水大津支所長 令和 4 年 横須賀市東部漁業協同組合 副組合長 令和 4 年 (一財) 神奈川県漁業操業安全協会 理事	〃	長塚博久氏は、横須賀市走水地先において、刺網漁業とりのり養殖業を営んでおり、漁場としている東京湾の多様な船舶が輻輳する実態について、日々の操業を通じて得た多くの知見を有しており、東京湾における漁業操業や航行安全に資する事業を行う(一財)神奈川県漁業操業安全協会の理事を務めている。 また、横須賀市東部漁協の副組合長及び同漁協の走水大津支所長を務めており、地域の漁業者の代表として、委員に適任である。

4	吉田一博	51	男	三和漁協 東京湾 上宮田 刺網漁業 わかめ・こんぶ 養殖	26 年		平成 26 年 上宮田漁業協同組合理事 平成 31 年 三和漁業協同組合理事 令和元年 三和漁業協同組合副組合長理事 令和 4 年 三和漁業協同組合代表理事組合長 平成 30 年 (一財) 神奈川県漁業操業安全協会 理事 令和 2 年 神奈川県漁業協同組合連合会理事 令和 5 年 神奈川県 J F 共済推進本部運営委員	〃	吉田一博氏は、上宮田地先で刺網漁業とわかめ、こんぶ養殖業を中心とした沿岸漁業を営んでおり、漁船以外の多様な船舶が輻輳する東京湾内の海面利用の実態について深い見識を持っており、地域漁業者の代表として(一財)神奈川県漁業操業安全協会の理事を長く務めている。 また、上宮田漁協から後の合併漁協である三和漁協までの理事を長く務め、現在は三和漁協の組合長に就いているほか、県漁連や漁業系統団体の役員を歴任しており、県域の漁業の情勢を踏まえた意見も期待できることから、委員として適任である。
5	山田正行	74	男	みうら漁協 東京湾 金田 一本釣り	44 年		平成 28 年 みうら漁業協同組合理事 平成 29 年 みうら漁業協同組合副組合長 平成 30 年 (公財) 神奈川県栽培漁業協会理事 平成 29 年 神奈川県漁業協同組合連合会監事 平成 30 年 全国合同漁業共済組合神奈川県事務所運営委員 平成 30 年 日本漁船保険組合神奈川県支所運営委員 令和 3 年 神奈川海区漁業調整委員会委員	〃	山田正行氏は、県下最大の漁協であるみうら漁協の副組合長として、組合運営に尽力してきた。 また、海洋レジャーも多い海域での一本釣り漁業や遊漁船業を通じ、操業上の調整問題に関する知見も豊富である。 さらに、日本漁船保険組合神奈川県運営委員等、水産系統団体の役員を務めるなど、三浦地域のみならず、県域に及ぶ本県の漁業振興の知見を有することからも、海区漁業調整委員として広い視点からの意見が期待できることから、委員として適任である。
6	宮川 均	64	男	みうら漁協 東京湾、相模湾 三崎 一本釣り	43 年	漁業士	平成 28 年 みうら漁業協同組合理事 平成 15 年 三崎小釣漁業研究会会長 平成 26 年 神奈川県小釣連絡協議会会長 平成 26 年 神奈川県漁業士会会長 平成 15 年 神奈川県遊漁・海面利用協議会委員 平成 28 年 太平洋広域漁業調整委員会委員 平成 26 年 神奈川県水産審議会委員 平成 28 年 神奈川海区漁業調整委員会副会長	〃	宮川均氏は、一本釣り漁業を主に操業し、県小釣連絡協議会の会長としてのキンメダイ資源管理の取組を通して漁業者の指導的立場として漁業者間の調整に尽力している。 みうら漁協の理事を務める他、県遊漁・海面利用協議会委員として遊漁との調整にも深い見識を持ち、現在も海区漁業調整委員会委員副会長として全国規模の漁業調整に関する深い知見を持つことから、海区委員として適任である。
7	小澤紳一郎	68	男	長井町漁協 相模湾 長井町 潜水漁業 一本釣り	20 年		平成 23 年 長井町漁業協同組合副組合長 令和 2 年 長井町漁業協同組合代表理事組合長 平成 22 年 長井町漁業協同組合アオリイカ増殖部会会長 平成 20 年 長井町漁業協同組合潜水部会長 令和 2 年 神奈川県漁業協同組合連合会監事 令和 2 年 日本漁船保険組合神奈川県支所運営委員	〃	小澤紳一郎氏は、一本釣り、素潜り等の沿岸漁業を営み、漁協においてもアオリイカ増殖部会や潜水部会長を務め、組合内の漁業秩序の維持に尽力してきた。 氏は磯根資源などに係る漁業調整について、多くの経験と多角的な視野を持ち、海区漁業調整委員として期待される漁場の立体的、重複的な総合利用についての見識を十分に持つことが期待される。

						令和2年 (一財) 横須賀西部水産振興事業団理事長 令和3年 神奈川海区漁業調整委員会委員		また、県内でも有数の水揚量を誇る長井町漁協の組合長や、県漁連や漁船保険組合など県域の役員の経験からも、海区漁業調整委員会委員として適任である。
8	福本憲治	61	男	湘南漁協 相模湾 佐島 まき網 大型定置	36年	平成20年 横須賀市大楠漁業協同組合理事 平成23年 横須賀市大楠漁業協同組合副組合長 平成26年 横須賀市大楠漁業協同組合代表理事組合長 令和6年 湘南漁業協同組合代表理事組合長 昭和61年 佐島漁業(株) 代表 平成24年 (一財) 横須賀西部水産振興事業団理事長 平成26年 神奈川県漁業協同組合連合会理事 平成26年 (公財) 神奈川県栽培漁業協会理事 平成26年 全国合同漁業共済組合神奈川県事務所運営委員 平成27年 一般社団法人横須賀市観光協会理事 平成27年 一般社団法人 神奈川県漁業無線協会理事 平成28年 神奈川県漁船保険組合理事 平成28年 (公財) 神奈川県栽培漁業協会栽培漁業推進協議会 平成29年 全国漁業信用基金協会神奈川県支所運営委員 平成29年 日本漁船保険組合神奈川県支所運営委員 平成28年 神奈川海区漁業調整委員会委員	〃	福本憲治氏は、横須賀市佐島地先において、大型定置網漁業を営み、地域の漁業生産に大きく寄与してきた。 また、横須賀市大楠漁協組合長を務めた際には、主力漁港のある佐島を有数の地域ブランドに育てる等、卓越した指導力を発揮してきた。一方、市域を超えた広域の漁協合併にも尽力し、現在は県内初の広域合併漁協である湘南漁協の組合長に就いている。 県域においても、県漁連をはじめとする水産関係団体の理事を務める等、その経験は豊富であることから、地域を代表する委員として適任である。
9	大竹清司	65	男	小坪漁協 相模湾 小坪 しらす船びき 網	30年	平成26年 小坪漁業協同組合代表理事組合長 平成26年 (公財) 神奈川県栽培漁業協会栽培漁業推進協議会 平成26年 神奈川県漁業協同組合連合会監事 平成29年 神奈川県漁業協同組合連合会代表監事 令和3年 神奈川海区漁業調整委員会委員	〃	大竹清司氏は、しらす船曳網の操業を行い、あわせて自家加工、直売も行う等、加工・流通・販売まで広く漁業に係る知見を有している。 また、組合長を務める小坪漁協では、強い指導力を発揮し、地元他産業との新たな製品加工や小売業者との直接取引等を実施するなど、漁業を核とした地域活性化にも尽力している。 さらに、県漁連代表監事を歴任しており、広く県域に及ぶ視点での意見も期待できることから、委員として適任である。
10	青木勝海	77	男	岩漁協 相模湾 岩 刺網漁業	39年	平成8、12、21年 岩漁業協同組合代表理事組合長 令和6年 岩漁業協同組合 副組合長 平成24年 (公財) 神奈川県栽培漁業協議会評議員 平成25年 神奈川県県西地域活性化推進協議会 平成23年 神奈川県漁業信用基金協会理事	〃	青木勝海氏は、岩漁協の組合長として永きにわたり組合の運営を主導してきた。岩漁協では自営定置網による安定的な漁業生産に努めるほか、岩ガキ養殖について新たに区画漁業権免許を受ける等、漁業生産の場の創出に尽力してきた。 また、現在の海区漁業調整委員会委員だけでなく、全国漁業信用基金

						平成 29 年 全国漁業信用基金協会 神奈川県支所運営委員 平成 17 年 神奈川県漁業共済組合理事 平成 28 年 神奈川海区漁業調整委員会委員		協会神奈川県支所の運営委員等の県域に及ぶ活動も歴任しており、 広く県域に及ぶ視点での意見も期待できることから、海区委員会委員として適任である。
11	青木 勇	76	男	真鶴町漁協 相模湾 真鶴 定置漁業 一本釣り漁業	36 年	平成 8、20 年 真鶴町漁業協同組合理事 平成 11、27 年 真鶴町漁業協同組合代表理事組合長 平成 27 年 神奈川県県西地域活性化推進協議会 平成 27 年 (公財) 相模湾水産振興事業団評議員 平成 28 年 全国合同漁業共済組合神奈川県事務所運営委員 平成 30 年 日本漁船保険組合神奈川県支所運営委員 令和 3 年 神奈川海区漁業調整委員会委	〃	青木勇氏は、県内でも有数の定置網を有する真鶴町漁協の組合長として永い経験を有し、県西地域における漁業生産に寄与している。さらに氏の強い指導により当漁協は、J A店舗での積極的な販売等、水産物の地産地消の促進等にも力をいれている。 また、全国合同漁業共済組合のほか、日本漁船保険組合神奈川県運営委員等の水産系統団体の役員も務めるなど県域団体での活動も行っており、地域漁業者の代表である海区委員として適任である。
12	小林和拓	26	男	無所属 神奈川海区全域 刺突漁業	2 年	令和 3 年 青山学院大学卒	個人応募	私は平成 29 年に青山学院大学経営学部に入學し、在學中から「適正な海面利用」をテーマに研究を進めてきました。特に、遊漁に関する研究に取り組み、「魚突きを巡る紛争の実態と解決方法」と題する論文を発表しました。また、千葉県が制定した違憲・違法な都道府県漁業調整規則について、行政に対して訴訟を起こしました。この研究活動を通して、海の資源を持続可能に利用するためには、適切な管理が欠かせないと強く感じ、その実現に向けて取り組んできました。この活動は、現在まで 7 年間続けており、その成果を少しでも社会に還元できればと考えています。 私は漁業者として、すでに約 2 年間の経験があります。特に、いずれの漁業協同組合にも所属していないため、利害関係に左右されることなく、客観的な立場で物事を考えることができます。このため、漁業の現場で得た経験を生かして、柔軟な視点で海面利用に関する課題に取り組むことができる点が私の強みだと考えています。 また、行政が行った不適切な措置に対しても積極的に取り組んできました。例えば、長崎県が行った漁具等の定義を非公開にする処分や、徳島県が発出した違憲・違法な海区漁業調整委員会指示に対しても訴訟を提起しました。これらの活動はすべて、海の利用が適正に行われることを目指したもので、私の取り組みの本質を示しています。日本の漁業が直面している厳しい状況において、今の体制や考え方では解決が難しいと感じています。私は、これまでに得た知識や経験

								をもとに、より良い海面利用を実現するために、神奈川海区漁業調整委員会委員に漁業者委員として応募することを決意しました。 適正な海面利用が実現することが、未来の漁業にとって不可欠だと信じています。
--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 学識経験委員

番号	氏名	年齢	性別	資格・職業等	経歴	応募・推薦 推薦者・団体	応募・推薦理由
1	鵜飼俊行	68	男	修士 神奈川県漁業協同組合連合会専務理事	平成 23 年 神奈川県水産課長 平成 27 年 神奈川県水産技術センター所長 平成 29 年 神奈川県漁業協同組合連合会 代表理事専務 平成 29 年 南関東防衛施設審議会委員 平成 29 年 神奈川県水産教育振興会会長 平成 29 年 かながわ食育推進県民会議委員 平成 29 年 神奈川県食の安全・安心審議会委員 平成 29 年 神奈川県協同組合連絡協議会監事 平成 29 年 神奈川県観光魅力創造協議会委員 平成 29 年 神奈川ユニセフ協会評議員 平成 30 年 日本漁船保険組合神奈川県支所運営委員	神奈川県漁業協同組合連合会	鵜飼俊行氏は、神奈川県庁職員として、水産課長、水産技術センター所長を歴任し、その経験は行政、研究いずれも豊富である。 県職員退職後は、県漁連代表理事専務として県内漁協への指導や水産振興に尽力し、本県水産業界へ大きく貢献している。さらに、日本漁船保険組合神奈川県支所運営委員等の水産関係団体の役員にとどまらず、神奈川県食の安全・安心審議会委員など、水産の枠を超えた活動をしており、海区漁業調整委員会における学識経験者委員として適任であることから、この者を推薦する。
2	櫻本和美	72	男	農学博士 東京海洋大学名誉教授	昭和 52 年 東京水産大学助手 昭和 58 年 国際捕鯨委員会委員 昭和 62 年 米国ロードアイランド大学訪問教授 昭和 63 年 東京水産大学助教授 平成 13 年 国際協力事業団モロッコ零細漁業改良整備計画国内支援委員長 平成 14 年 国際漁業研究会副会長 平成 14 年 東京水産大学教授 平成 15 年 東京海洋大学教授 平成 19 年 水産政策審議会資源管理分科会会長 平成 20、24 年 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋管理政策学専攻主任 平成 22 年 日本海洋政策研究会理事	東京海洋大学海洋資源環境学部	櫻本和美氏は、水産資源動態学、水産資源管理学の専門家として同大学助手、東京海洋大学教授を務めた。現在東京海洋大学名誉教授。国際捕鯨委員会科学委員会委員、水産政策審議会会長等の歴任の他、神奈川海区漁業調整委員会会長として活躍し、我が国水産の振興に尽力している。さらに、著作として「水産ハンドブック」、「漁業管理の ABC」、「水産学用語辞典」等、多岐にわたり、海区委員における学識経験者委員としてふさわしく、推薦をするものである。

					平成 22 年 水産政策審議会会長 平成 22 年 東京海洋大学学長補佐 平成 23 年 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻主任 平成 28 年 神奈川県水産審議会委員 平成 28 年 神奈川海区漁業調整委員会会長		
3	玉置泰司	66	男	水産学博士 (一社)日本定置漁業協会専務理事	昭和 58 年 水産庁入省 研究部資源課 沿岸資源班 昭和 62 年 水産庁漁政部企画課 漁業基本対策室 係長 平成 3 年 農林漁業金融公庫 融資第 2 部水産課 副調査役 平成 5 年 水産庁漁政部企画課 企画班 課長補佐 平成 7 年 水産庁 中央水産研究所 経営経済部 主任研究官 平成 18 月 (独)水産総合研究センター 中央水産研究所 研究室長 平成 23 年 (独)水産総合研究センター 中央水産研究所 経営経済研究センターグループ長 平成 30 年 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所 経営経済研究センター長 平成 31 年 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 研究員 令和元年 一般社団法人日本定置漁業協会 専務理事 令和 2 年 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 研究員 平成 12 年 日本型グリーンソーリズム確立検討委員会委員 (財団法人 農林漁業体験協会) 平成 13 年 漁業経済学会常任理事 平成 14 年 地域活性化方策調査検討委員会委員 (財団法人 漁港漁村建設技術研究所) 平成 16 年 平成 16 年度水産業経済構造総合調査中央検討会議委員 (水産庁) 平成 17 年 干潟生産力改善対策事業検討委員会委員 (中央水産研究所) 平成 19 年 地域漁業学会理事 平成 20 年 サンマ輸出ビジネスモデル戦略の策定委員会委員 (野村総合研究所) 平成 22 年 全国さんま棒受網漁業地域プロジェクト協議会委員 (全国さんま漁業協同組合) 平成 22 年 水産業・漁村の有する多面的機能に関する調査委員会委員 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社) 平成 26 年 科学研究費委員会専門委員 平成 27 年 水産業・漁村の多面的機能発揮のあり方に関する検討会委員 (水産庁) 平成 27 年 漁業経済学会編集委員 平成 28 年 競争力強化型機器等導入緊急対策事業競争力強化型機器等評価委員会委員 (一社海洋水産システム協会) 平成 29 年 漁業経済学会学会賞選考委員会委員 平成 29 年 小田原市内水面漁業活性化に関する検討会委員 (小田原市)	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所	玉置氏は、中央水産研究所において水産経済を専門とした研究に取り組み、「水産業・漁村の多面的機能と政策形成」に関する一連の研究や、地場水産物に關しての実績をあげてきた。特に沿岸漁業の主流である定置網に関する見識も深く、「定置網漁業を核とした六次産業化による地域活性化」は、代表的な研究として高く評価されている。現在は、日本定置漁業協会専務理事も務める等、専門を活かし水産振興に尽力していることから、学識経験者（漁業経営）の委員として適任であり推薦を行う。

					平成 30 年 さけ・ます類分布回遊動向調査事業さけます代替漁法調査・検討委員会委員（一社海洋水産システム協会） 令和元年 全国漁場環境保全対策協議会監事 令和元年 小田原市内水面漁業活性化協議会会員（小田原市） 令和 2 年 水産多面的機能発揮対策支援委託事業検討委員会委員（全漁連・全内漁連） 令和 3 年 地域漁業学会監事 令和 3 年 神奈川海区漁業調整委員会委員		
--	--	--	--	--	---	--	--

3 中立委員候補者

番号	氏名	年齢	性別	資格・ 職業等	経歴	応募・推薦 推薦者・団体	応募・推薦理由
1	平島慶子	43	女	弁護士	平成 20 年 弁護士登録 令和 3 年 横浜市空家対策協議会委員	神奈川県弁護士会	平島慶子氏は、平成 20 年に弁護士登録を行い、弁護士としての業務に邁進してきた。また、横浜市が設置する協議会の委員に就任し、弁護士として専門性のみならず、行政委員等についての経験を有しており、神奈川海区漁業調整委員会委員に適任である。
2	眞鍋淳子	65	女	文筆家	漁業以外の職業に関する経歴 ○平成 10 年頃～現在 NHK文化センター・よみうりカルチャークラブ・風カルチャークラブ・NEXCO 東日本講師等のほか講演多数（別記のとおり） ○平成 9 年頃～現在 「人の生活を記録」をテーマに著書執筆（別記のとおり） ○昭和 58 年～現在 「旅の手帖」「散歩の達人」「サライ」「横濱」など雑誌執筆（別記のとおり） その他漁業団体等に関する経歴 ○平成 28 年 8 月 15 日～令和 7 年 3 月 31 日 静岡海区調整委員 静岡海区調整委員（2 期）21 期、22 期 平成 28 年 8 月 15 日～令和 2 年 8 月 14 日（公益委員） 令和 3 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日（中立委員） ○平成 24 年 11 月 15 日～ 水産庁長官より お魚かたりべ拝命 ○平成 12 年頃～平成 30 年頃 全国漁業協同組合連合会機関紙「漁協」執筆 ○平成 26 年 11 月～平成 30 年頃 横浜市魚市場卸売協同組合 P R 活動等（別記のとおり） （別記）【参考】 漁業以外の職業に関する経歴（主に水産関係について中心に）	個人応募	私はカメラマンの夫と 2 人で「人の生活を記録」をテーマに、国内外を旅しながら取材を続け、書籍や雑誌への執筆、講演、またカルチャー教室では漁港を訪ね、体験等の講師もしております。特に漁業者や水産業界、食文化としての魚食については長年折々に取材。神奈川県におきましても東京湾・相模湾の漁業関係の方々や神奈川県水産技術センターの職員の皆様には 20 数年にわたって漁船乗船や市場の仕事見学など様々な場面で学ばせていただいております。海区調整委員として今までのわずかながらのご恩返し、及びより深く神奈川県の水産について学びたく存じます。

				①カルチャー教室講師 ・NHK文化センター（商店街門前町歴史さんぽ、江ノ電で地魚散歩・鎌倉腰越のシラス漁師と漁港歩き・片瀬漁港・湘南丸のシラス加工見学など、地元目線の江ノ島歩き・江ノ島漁師の話や貝細工の話・生活者としての島暮らしについてなど） ・風カルチャー（東京湾岸歩き 陸から海から今むかしー漁師に教わるわかめ刈りと加工法・海苔すき体験講座、干潟歩き講座、刺網と干物づくり体験・たこの塩揉み体験等。埋立地の歴史をたどる、軍事遺跡歩き等） ・よみうりカルチャー（写真さんぽ講座・築地市場・豊洲市場の歴史と買い物等） ・NEXCO 東日本（江ノ電で地魚めぐり、鎌倉腰越のシラス漁師・片瀬の魚市場など） ・その他単発講座や講演等（九州電力、石川県能登町、青森県八戸市、環境庁他多数） ②書籍（写真はすべて夫） 「ニッポンの村へゆこう」（筑摩書房） 「うまい江戸前漁師町」「中古民家主義」（交通新聞社） 「産む快感」（自然食通信社） 現在「東京湾漁師町〔仮〕」（筑摩書房）を執筆中。 共著 「ベトナムわんさか共和国」「アジアで麺」（共著・トラベルジャーナル） 「さすだけでわかるトラベルタイ語」（共著・日本文芸社） など多数。 ③雑誌 「旅の手帳」「散歩の達人」（交通新聞社）にて、全国各地、特に東京湾・相模湾の漁師取材を20年以上重ねる。 月刊誌「サライ」（小学館）にてわかめの加工法や船遊びなど、様々なテーマで長年全国を取材。 「東京人」（都市出版）・季刊誌「横濱」（神奈川新聞社）・「dancyu」（プレジデント社）・などの様々な媒体で、全国及び東京湾や相模湾の漁業者や市場、食文化について執筆。 ④テレビ番組（NHK・BS-TBS・テレビ東京等で東京湾岸の漁師取材や江ノ島等のガイド役として出演・企画） ⑤その他 「人の生活を記録」をテーマに国内外を写真家の夫と2人で旅を続ける。 ・特にベトナムには平成3年～7年頃まで通い、北は中国国境の山間部から南部メコンデルタ地帯の一般人や少数民族地帯などの生活や食生活、民間療法、出産儀礼、農漁村の暮らしなどを取材。 ・ハノイ大学や日本文化研究センター等にて「日本文化」について複数回スライドトーク講演。日本		
--	--	--	--	--	--	--

					に於いてもベトナムの生活文化等について講演・執筆。 ・国内では1980年代から過疎村、山村、農漁村等、村に特化した取材も続けている。 その他漁業団体に関する経歴 ⑥全国漁業協同組合連合会業界誌「漁協」にて、全国各地の漁協・水産関係者・漁業者等を長年取材。 ⑦全漁連主催「シーフード料理コンクール」にて数年間、夫の料理写真撮影補助、執筆等。 ⑧横浜市中心卸売市場の横浜市魚市場卸売協同組合の依頼で「神奈川の漁港をめぐる」「かながわの魚が食べたい」取材、現在HPで閲覧可能 (https://www.hamaoroshi.or.jp/gyokou?lang=ja) (https://www.hamaoroshi.or.jp/kfish?lang=ja) ⑨その他、平成17年神奈川県で開催の「第25回全国豊かな海づくり大会」にて、夫の写真提供及び説明文執筆等、各方面にて漁業に関する写真提供や執筆等。 ＊①～⑨の取材や講座等で、これまでに巡り歩いた神奈川県内の主な漁港・市場・食文化等。 横浜市：子安（投網・穴子）・本牧（底引網漁）・小柴（シャコ・穴子・タチウオ等）・金沢・横浜市中心卸売市場 横須賀市：新安浦（わかめ・昆布・刺網・タコ・巻網等）・長井・佐島・久比里（タコ） 三浦市：北下浦・金田（定置網漁）・三崎（カツオ・マグロ・マグロ食文化等）・松輪（サバ・金目鯛・ひじき・潜水漁） 鎌倉市：材木座（シラス）・坂下（シラス・小型定置網漁）・腰越（シラス・たたみイワシと生シラスの歴史聞き取り） 藤沢市：片瀬（定置網漁・魚市場・シラス）・江ノ島（一本釣り） 平塚市：平塚（定置網漁・シラス） 茅ヶ崎市：茅ヶ崎（シラス・地引網漁） 二宮町：二宮（定置網漁） 小田原市：小田原・小田原魚市場 真鶴町：真鶴（定置網漁・アジのまご茶）		
--	--	--	--	--	---	--	--

※掲載の都合から、一部要約等をする場合があります。